



令和6年能登半島地震における支援活動記録



名古屋市上下水道局 奥平 圭祐
(令和6年度抄録委員会委員)

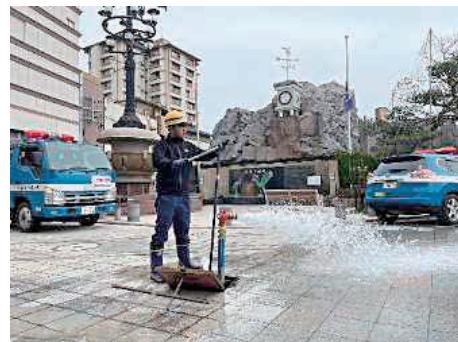
1 派遣先及び活動期間

七尾市 (令和6年2月26日～3月6日)

珠洲市 (令和6年4月30日～5月9日)

2 主な業務・役割

- ・七尾市及び珠洲市の応急復旧計画の調整 (リエゾン)
- ・七尾市及び珠洲市との調整窓口
- ・各応援事業体との応急復旧計画の調整及び共有
- ・通水作業及びバルブ整理の補助



七尾市での放水作業の様子

3 一日の主な流れ

- ・朝礼、作業確認
- ・派遣先事業体及び応援事業体とのミーティング (当日の作業内容確認、報告書の受理など)
- ・応急復旧計画の立案
- ・漏水調査報告書の作成、管路修理報告書の整理
- ・資機材の手配依頼、資材管理補助

4 印象に残ったこと

<七尾市> 私が派遣された2月末 (当時断水戸数約4,100戸) では和倉温泉街への通水という明確な目標がある中での作業となりました。通常時の配水区域を変更するなどして、苦労しながらも目標を達成することができました。私は初めての派遣でしたが、調整全般業務において作業を分担しながらも共有しつつ進めることで後戻りなく作業を進めることができました。一方で、現場状況と配水管管理図面との相違やバルブ開閉状況等がわかる図面が十分に無い箇所もあり、日頃から台帳の整備を行う重要性を改めて認識しました。また、応援事業体も複数の自治体が同じ配水区域内で活動していた時期には、管轄境界付近での作業において、通水やその他の作業が重なり時間をロスしてしまうこともあったため、事業体間の綿密な調整や情報共有の重要性を学ぶことができました。各事業体撤退の際には、引継ぎを円滑に行うために、漏水調査報告書、未復旧箇所の整理を確実に行之、一覧で確認できるようなリストを作成するよう依頼し、スムーズに引継ぎを行うことを心掛けました。

<珠洲市> 私が派遣されたのは4月末 (当時断水戸数約1,800戸) であり、通水エリアの拡大を目的とし、スピード感をもって応急復旧を進めることを心掛けました。その中で、配水管の材料管理が課題であり、本市本庁にて後方支援で対応していましたが、同時に複数の修繕を実施するため現地での棚卸が追いつかず、材料表と資材置場での数の相違により急遽材料の手配をすることも多々ありました。さらには、現地での使用材料は事業体により異なるため覚えるのに苦労しました。また、家屋倒壊の被害が大きい市東部エリアでは漏水量が多く、スマートフォンにて配水池の水位を確認しつつ通水エリアを拡大していく中で水位が大きく低下し、全戸断水になりかねない状況になるなど一筋縄ではいかない部分もありましたが、珠洲市職員と協力 (近隣事業体に許可を得て貸借) し、手を止めることなく復旧作業を進めることができました。改めて、私が実務で携わったことのない施設系の事や水運用などの知識や経験が必要だと感じました。